神秘学ポエジー 風遊戯

photopos

148

【神秘学ポエジー〜風遊戯 第 296集】 photo ヴァージョン

photopos 3676-3700

《2024.10.3〜2024.10.27.》

神秘学遊戯団

☆photopos-3676　2024.10.3

謎とは
言葉が迷うこと

秘密は
すぐ目の前にあったとしても
気づくことはむずかしい

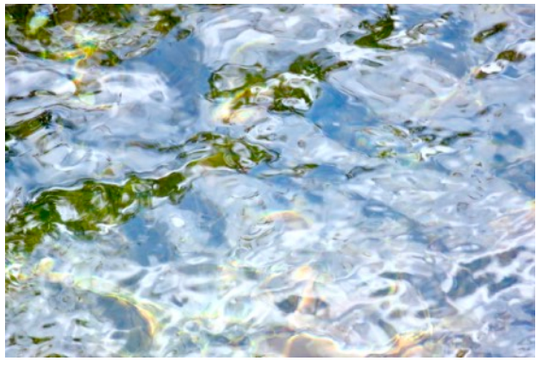
それは
知識の言葉で
さまざまに装飾されているからだ

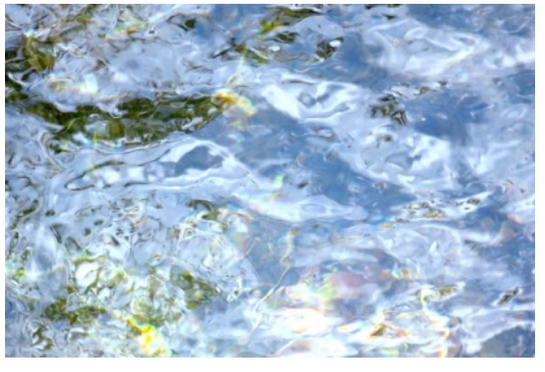
自由という言葉を知ることは
自由になることではなく
愛という言葉を知ることは
愛することではないように

ヴェールのなかの
智慧の姿は
隠された秘密に見えてしまう

知識は教え
与えることができるとしても
智慧は分けることも
測ることもできない

その単純な深みにみずからを投げいれ
沈黙のなかで
みずから学ぶしかないのだ





＊愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

☆photopos-3677　2024.10.4

じぶんの
ことばは
どこにある

ひとの
ことばを
まねしてみても

じぶんが
いなく
なるばかり

ことばを
さがして
たびにでる

のをこえ
やまこえ
はるばると

うちゅうの
はてまで
たびしても

じぶんの
ことばは
みつからぬ

どうした
ものかと
まよったはてに

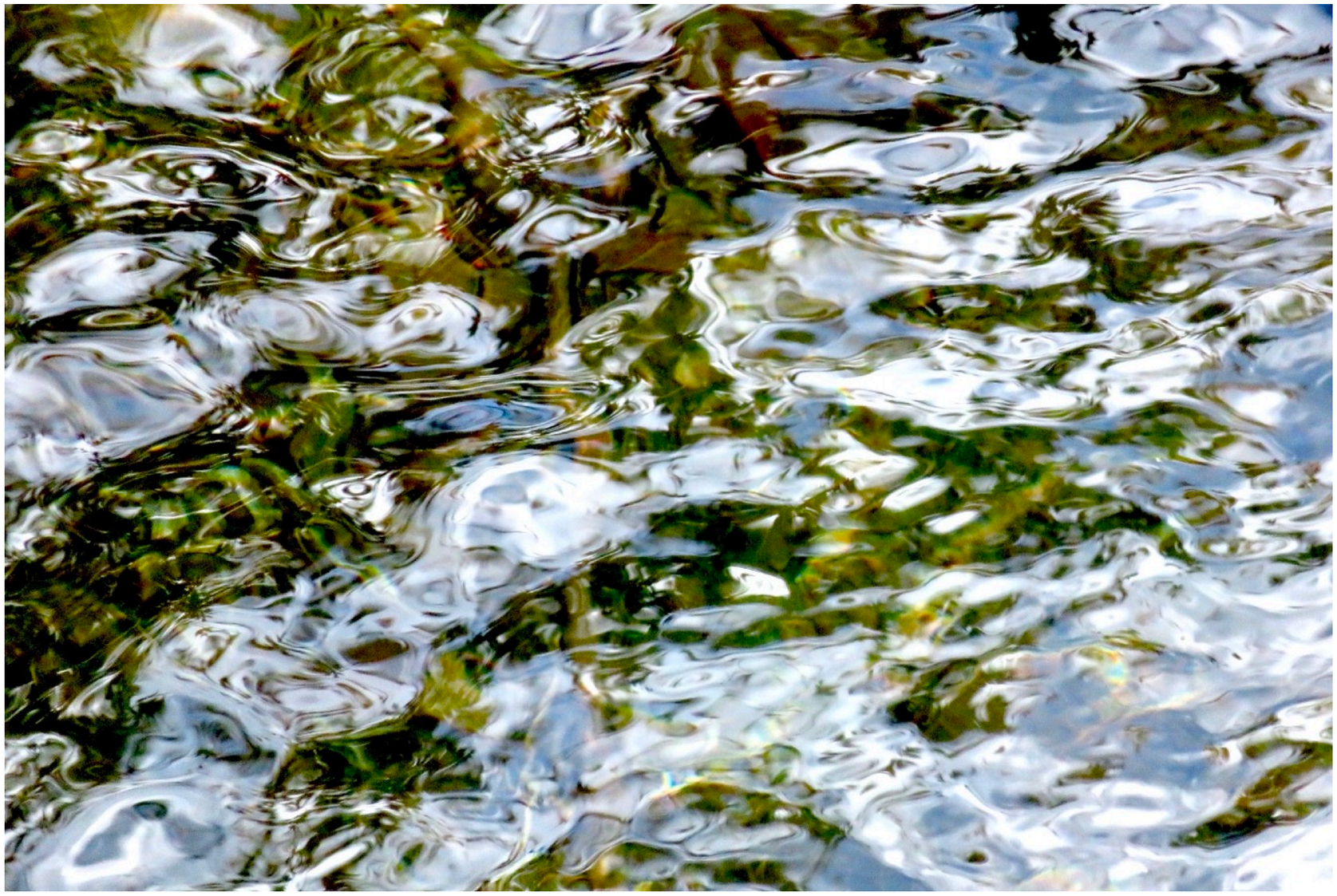
いつもの
ことばが
あらわれた

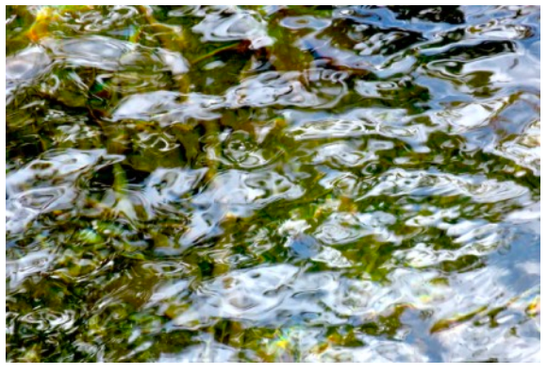
いつも
じぶんの
そばにいる

いつもの
ことばが
あらわれた

とにもかくにも
じぶんの
ことば

そこから
たびは
はじまった





＊愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

☆photopos-3678　2024.10.5

あなたを
知ることは
むずかしいけれど

あなたのことばを
味わうことはできる

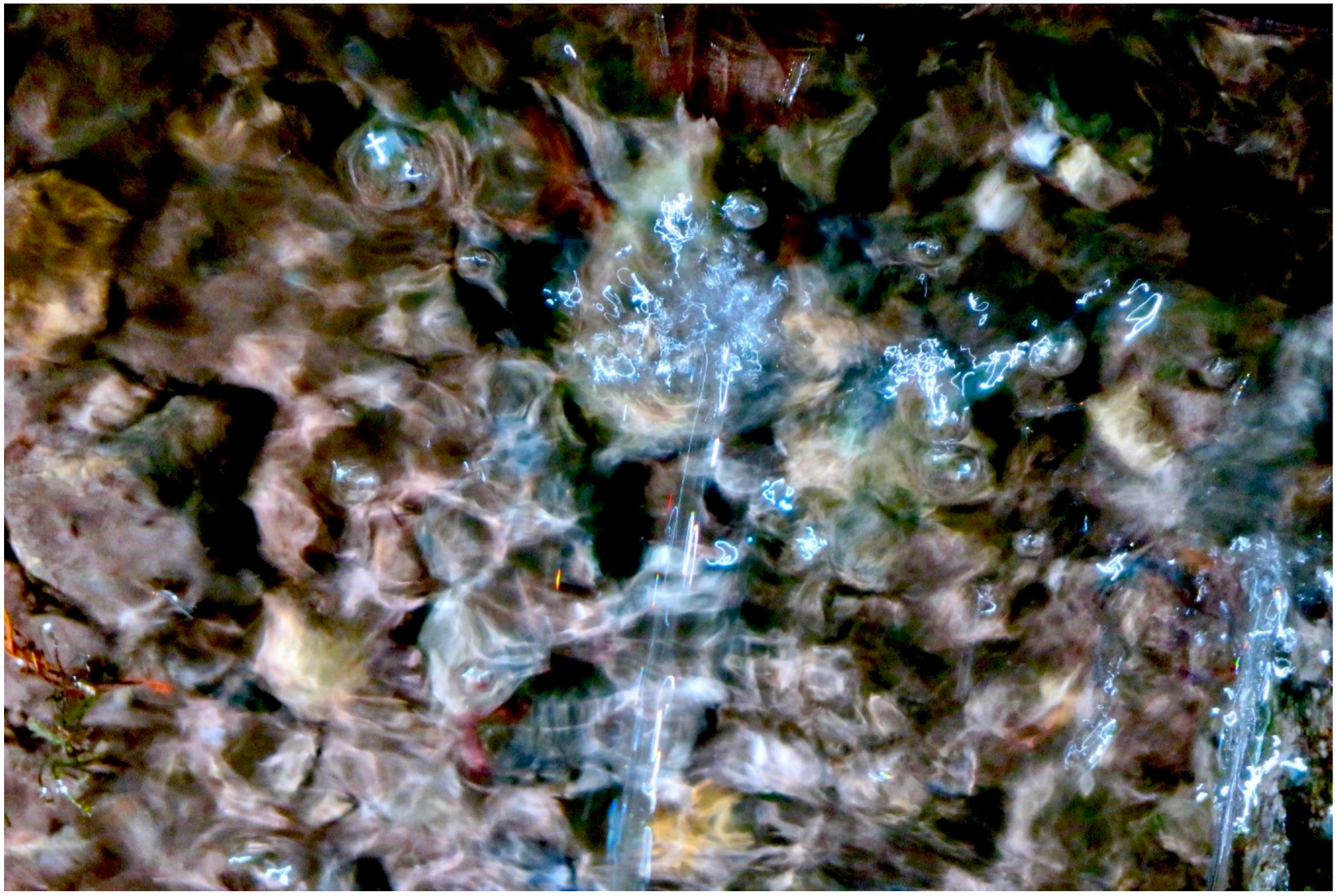
あなたの
代わりには
なれないけれど

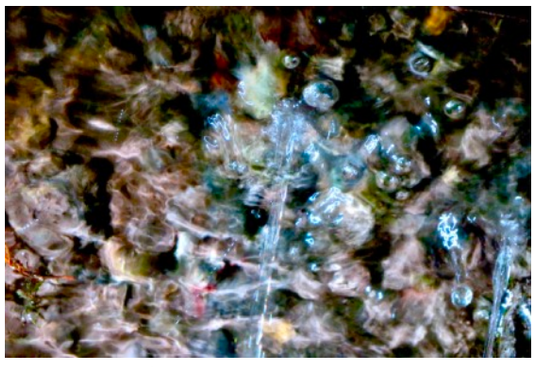
あなたを
愛することはできる

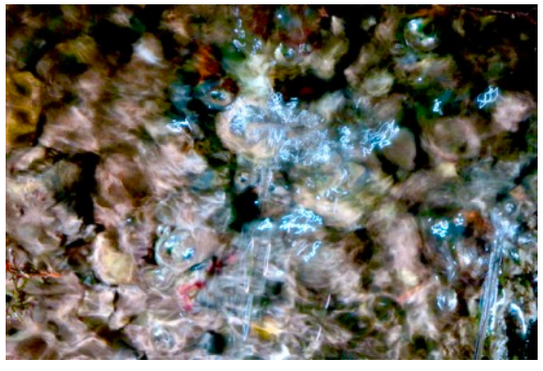
あなたに
なることは
できないけれど

あなたと
ともにいることはできる

あなたと
ともに笑うことも
ともに歌うこともできる







＊愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

☆photopos-3679　2024.10.6

夕暮れには
ミネルヴァのふくろうが
飛ぶばかりじゃないだろう

時は止まってはいない
変化のなかにある

変化のなかでこそ
経験が意味をもつ

変化のないところで
飛びまわったところで
そこからはなにもはじまらない

朝と昼の光をうけた
夕暮れにこそ
未知へと向かう智慧は
飛びたっていかねばならない

光と闇を纏った
新たな翼が必要だ

＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3680　2024.10.7

人は変わり
言葉は変わる

時代は変わり
言葉は変わる

所は変わり
言葉は変わる

そして
変わっていく言葉が
また人を変えていく

ときに豊かに
ときに貧しく

ときに自由に
ときに禁じられ

ときに開かれ
ときに閉じられもしながら

その繰り返しのなかで
人は何を感じ
何を考えるのか

言葉という
どこからくるのか
そしてどこへゆくのかわからない
そんな謎の存在とともに

＊愛媛県松山市・重信川河口にて

☆photopos-3681　2024.10.8

世界は
驚きに
満ちている

驚きに
言葉を与え
飼い慣らすことも
できるだろうが

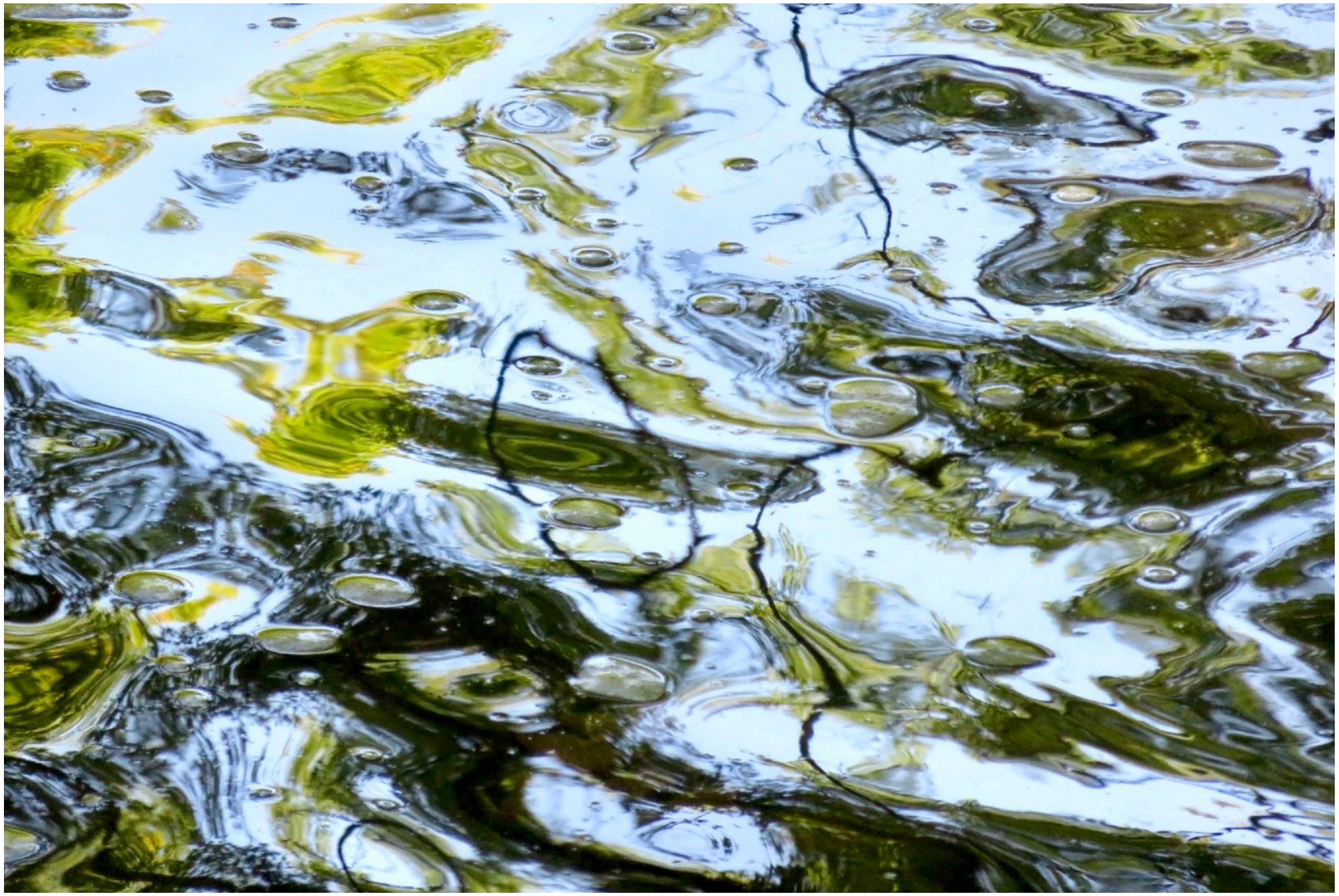
そうすることで
切り刻まれ
見えなくなるものがある

しかしそれらは
失われてはいるわけではない

言葉という檻に
囚われているものたちを
解き放ちさえすれば
驚きは甦る

叩けよ
さらば開かれん
求めよ
さらば与えられん

世界は
驚きに
満ちている



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3682　2024.10.9

光は
見えないものに
ささえられ

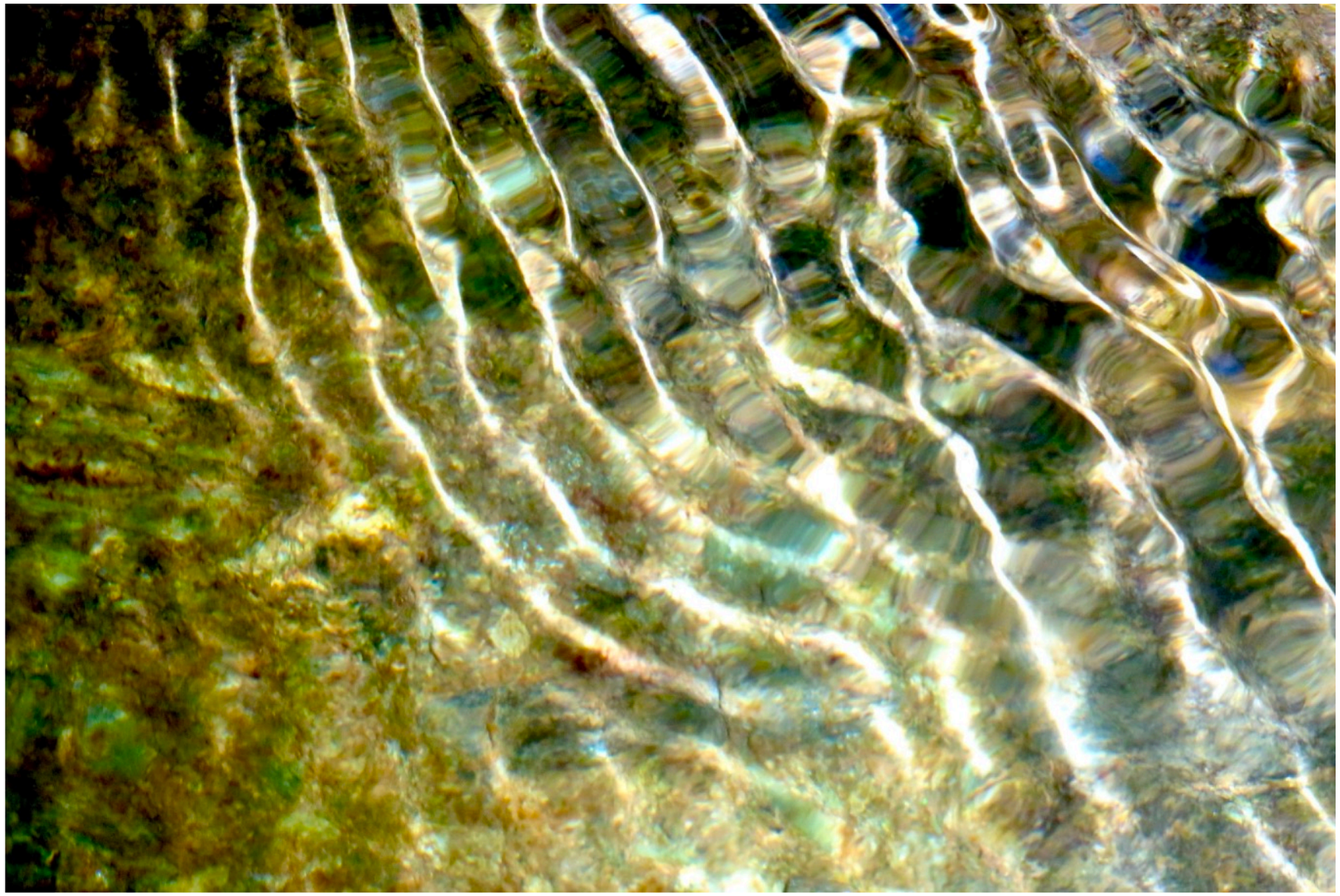
音は
聞こえないものに
ささえられているように

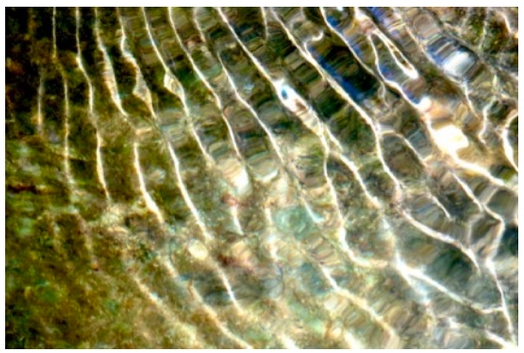
からだは
もうひとつのからだに
ささえられ

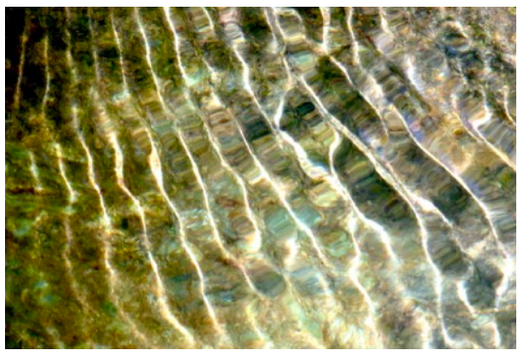
こころは
もうひとつのこころに
ささえられている

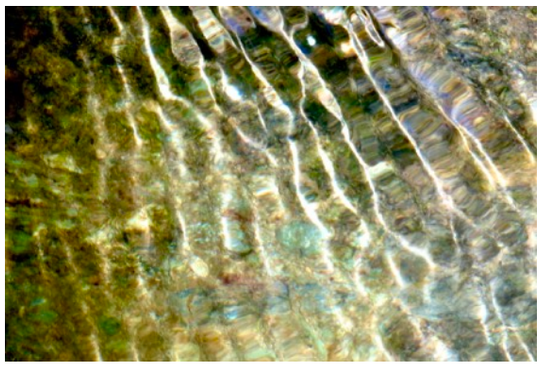
だから
ひとりで
いるときも
わたしは
ひとりではない

ひとりで
歩いているときも
わたしは
ひとりで歩いてはいない









＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3683　2024.10.10

わたしのなかの
なにかが変わる
すると世界の姿も
また変わっていく

ならば
わたしのなにが
変わればいいのだろう
それとも･･･

わたしがわたしである
そのためにわたしは
どんな価値のなかで生きてきたのか
生きていこうとしているのか

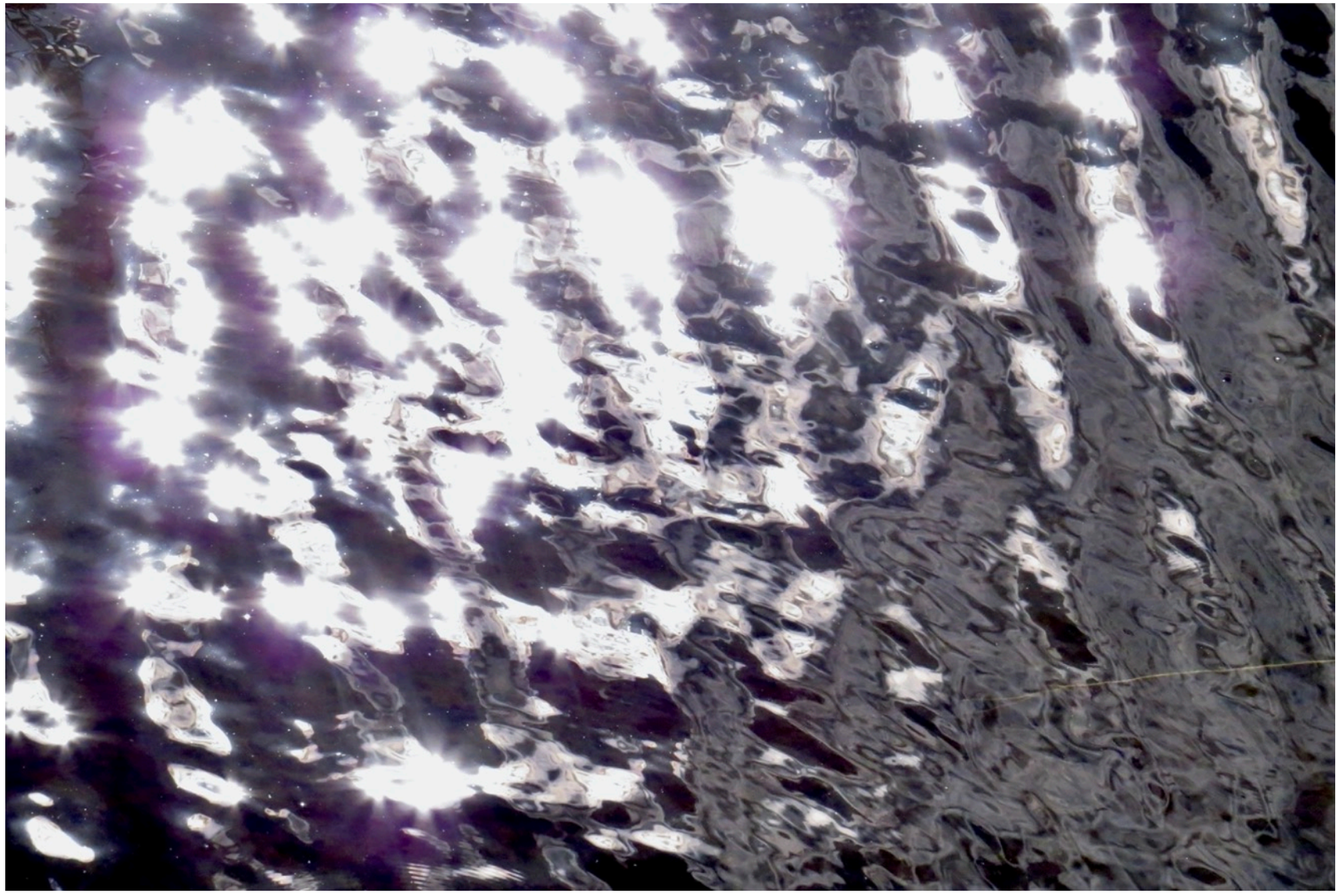
問いの迷路のまえで
わたしは立ち竦む

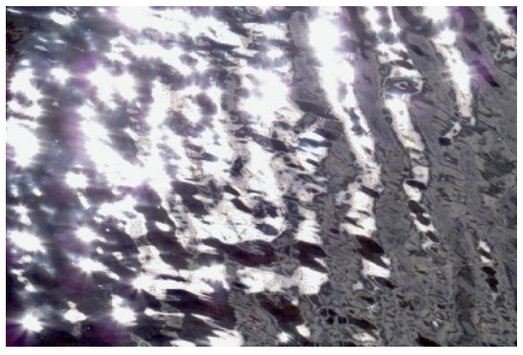
世界のなかの
なにかが変わる
すると私も
また変わっていく

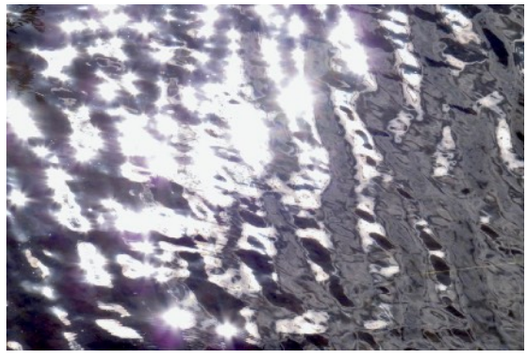
ならば
世界のなにが
変わればいいのだろう
それとも･･･

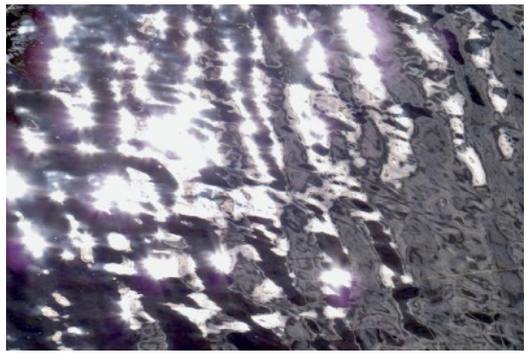
世界が世界である
そのために世界は
どんな姿をとってきたのか
とろうとしているのか

問いの迷路のまえで
わたしは立ち竦む









＊愛媛県伊予郡砥部町・用水池にて

☆photopos-3684　2024.10.11

心がこわれ
不可能になったときは
心を
閉じなければならない
閉じて
心にかたちをとりもどす

心がとらわれ
不自由になったときは
心を
開かねばならない
開いて
箱から外へでる

心が迷い
行方知れずになったときは
心を
見つめねばならない
見つめて
心に道をとりもどす

心がすくんで
動けなくなったときは
心を
止めてはならない
止めずに
偏した心を平衡させる

＊愛媛県伊予郡砥部町・用水池にて

☆photopos-3685　2024.10.12

ここ
とは
どこだろう

いま
とは
いつだろう

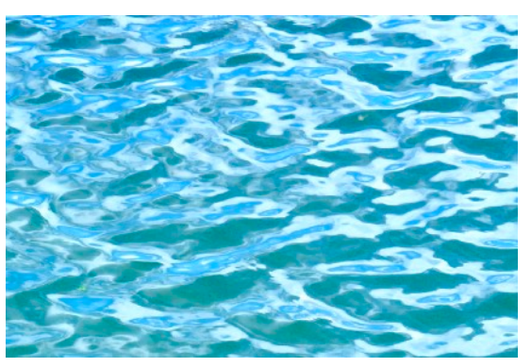
ヴァーチャルは
ここ
でも
いま
でもないが

この
からだ
この
こころの
現実も

ここ
でも
いま
でもない
どこか
いつか
なのかもしれない

けれど
謎のように
わたしは
こうして
あらわれている

わたし
とは
だれか
という問いとともに



＊愛媛県伊予郡砥部町・用水池にて

☆photopos-3686　2024.10.13

水平だけを
見ると
同じでも

垂直に
見ると
異なっていたりする

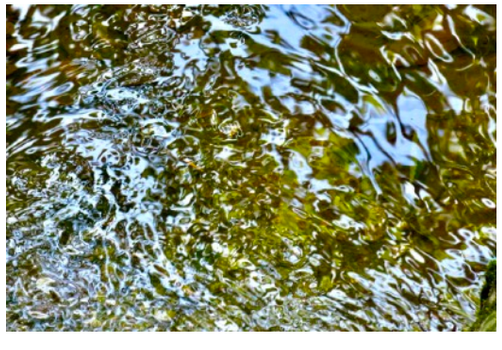
見えるものを水平
見えないものを垂直

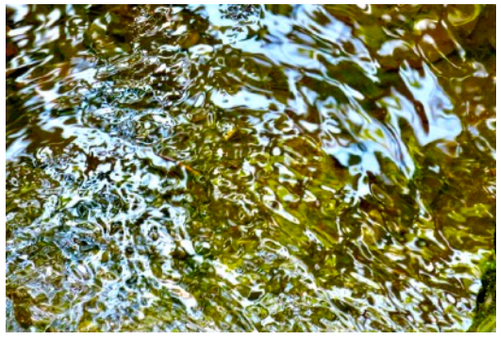
時計の時間を水平
心の時間を垂直

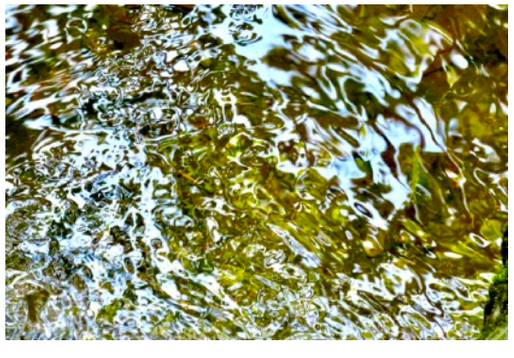
だとすれば
水平と垂直が
交叉している
結び目にわたしがいる

結び目は
変わり続けるけれど
その平衡が
失われたとき

わたしは
わたしでいることが
できなくなる







＊愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

☆photopos-3687　2024.10.14

なんのために
生きるのか

生きるために
生きるときはじめて
生きることは
自由になる

なんのために
詠うのか

詠うために
詠うときはじめて
詠うことは
自由になる

なんのために
知るのか

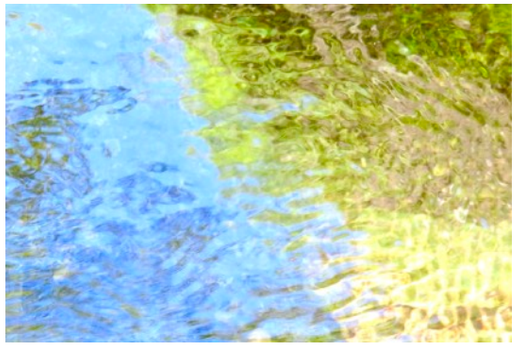
知るために
知るときはじめて
知ることは
自由になる

なんのために
愛するのか

愛するために
愛するときはじめて
愛することは
自由になる

なんのために
遊ぶのか

遊ぶために
遊ぶときはじめて
遊ぶことは
自由になる



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3688　2024.10.15

分けられないものを
分けることで
言葉は生まれ

その言葉で
世界は名づけられ
意味づけられていくが

言葉を
じっと
見つめていると

分けられているはずの
言葉の顔はしだいに失われ
わけられないものへと
戻っていくことがある

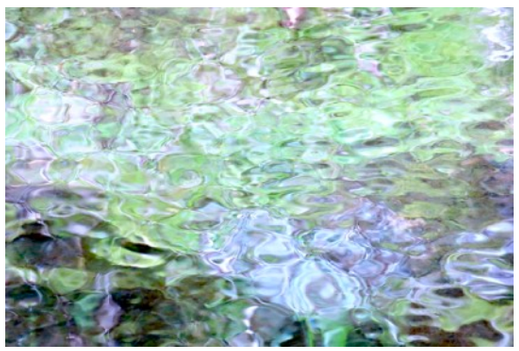
言葉の絶対的な自由は
意味をなくした場所から
生まれていく

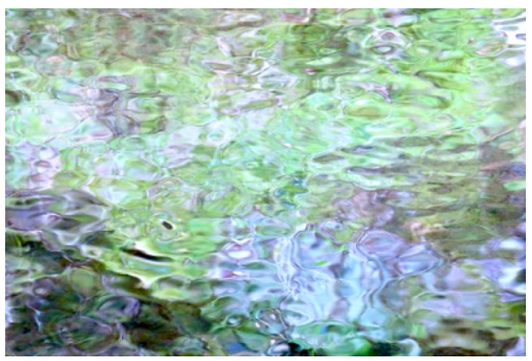
わたしは
じぶんをわたしと呼ぶことで
わたしになっているが

じぶんがだれかを
問いつづけていると

じぶんであるはずの
わたしはしだいに失われ
わたしでないものへと
変わっていくことがある

わたしの絶対的な自由は
存在の虚無のなかから
生まれていく





＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3689　2024.10.16

光には
罠がある

光は
闇を隠すからだ

隠された闇は
ますます見えなくなる

わかりやすさには
罠がある

わかりやすさは
むずかしさを隠すからだ

隠されたむずかしさは
居場所のないまま捨てられてしまう

共感には
罠がある

共感を求めすぎると
他者を隠すからだ

隠された他者と
わかりあえないままに
分断されてしまう

＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3690　2024.10.17

意味は
見えないけれど
その宇宙は
見えないところで
星となっている

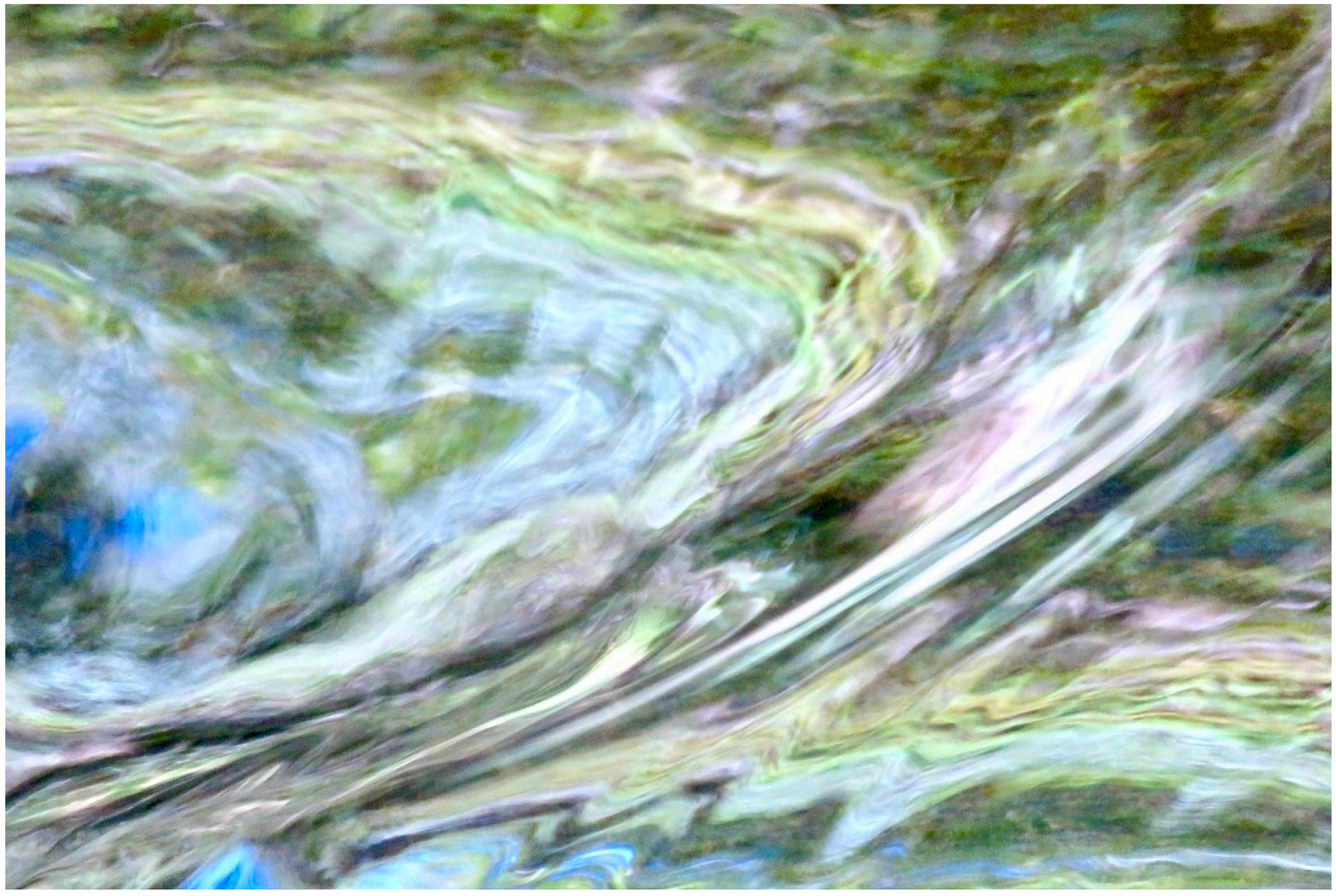
そして
星と星はつながり
星座をつくる

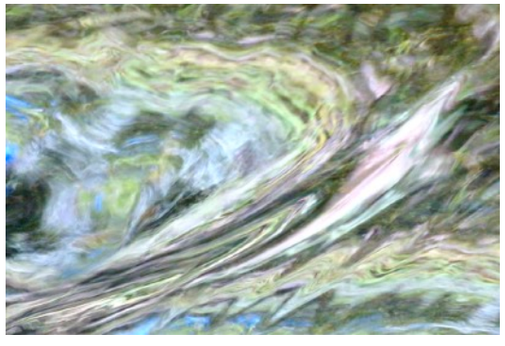
意味になるまえの
混沌の宇宙がある

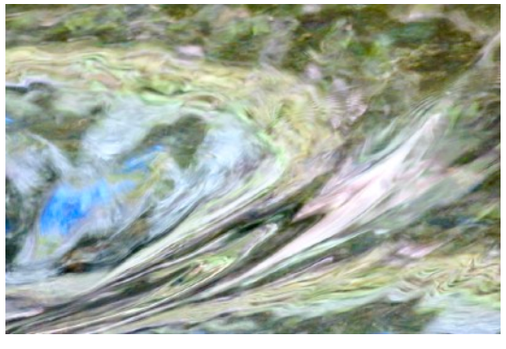
その混沌から
星雲は生まれ
やがてそこから
星は生まれていく

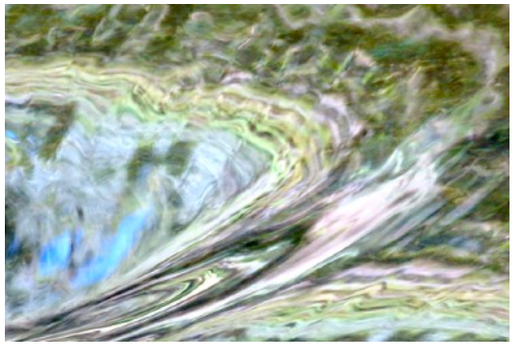
意味は生まれ
つながり
そして星座となり

そうして我々は
無数の星座を
描きだしながら
内的宇宙を生きている









＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3691　2024.10.18

意味の混沌から

固体のように
閉じていくことも

液体のように
流れていくことも

気体のように
広がっていくこともできるが

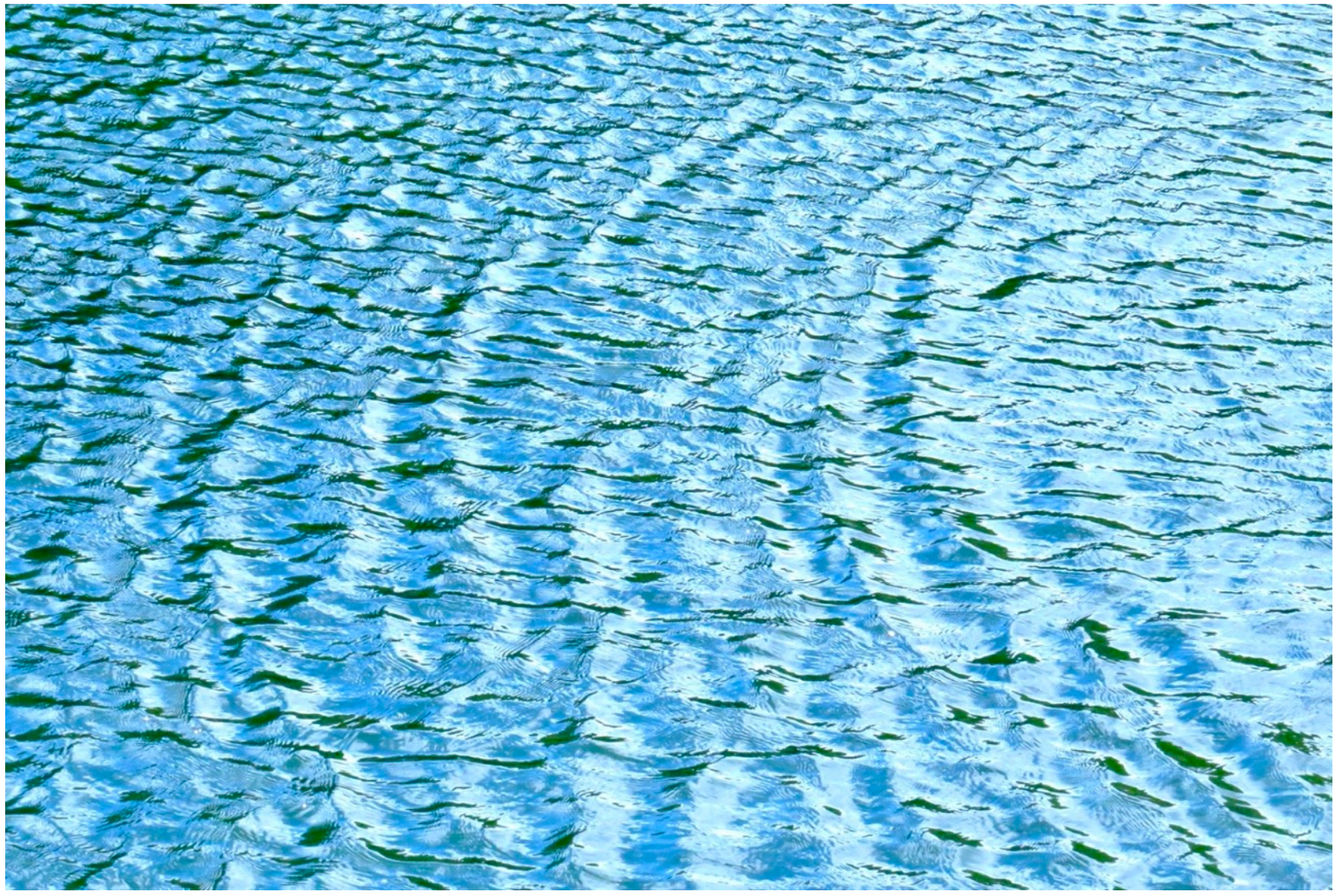
こころは
固体のなかでは窒息し
液体のなかでは確かさを失い
気体のなかではわれを失う

とかく
意味はめんどうだ

めんどうだからといって
意味を捨て去るわけにはいかない

どちらにしても
めんどうだと悟ったとき

混沌から生まれながら
混沌を捨て去らないですむように
ポエジーはうまれてくる



＊愛媛県砥部町・用水池にて

☆photopos-3692　2024.10.19

いつも
からっぽでいる

青い空に
ちっぽけな雲が
浮かんでいるように

すきとおった水に
その青空が
うつっているように

しずかに風が
その水面を
わたっていくように

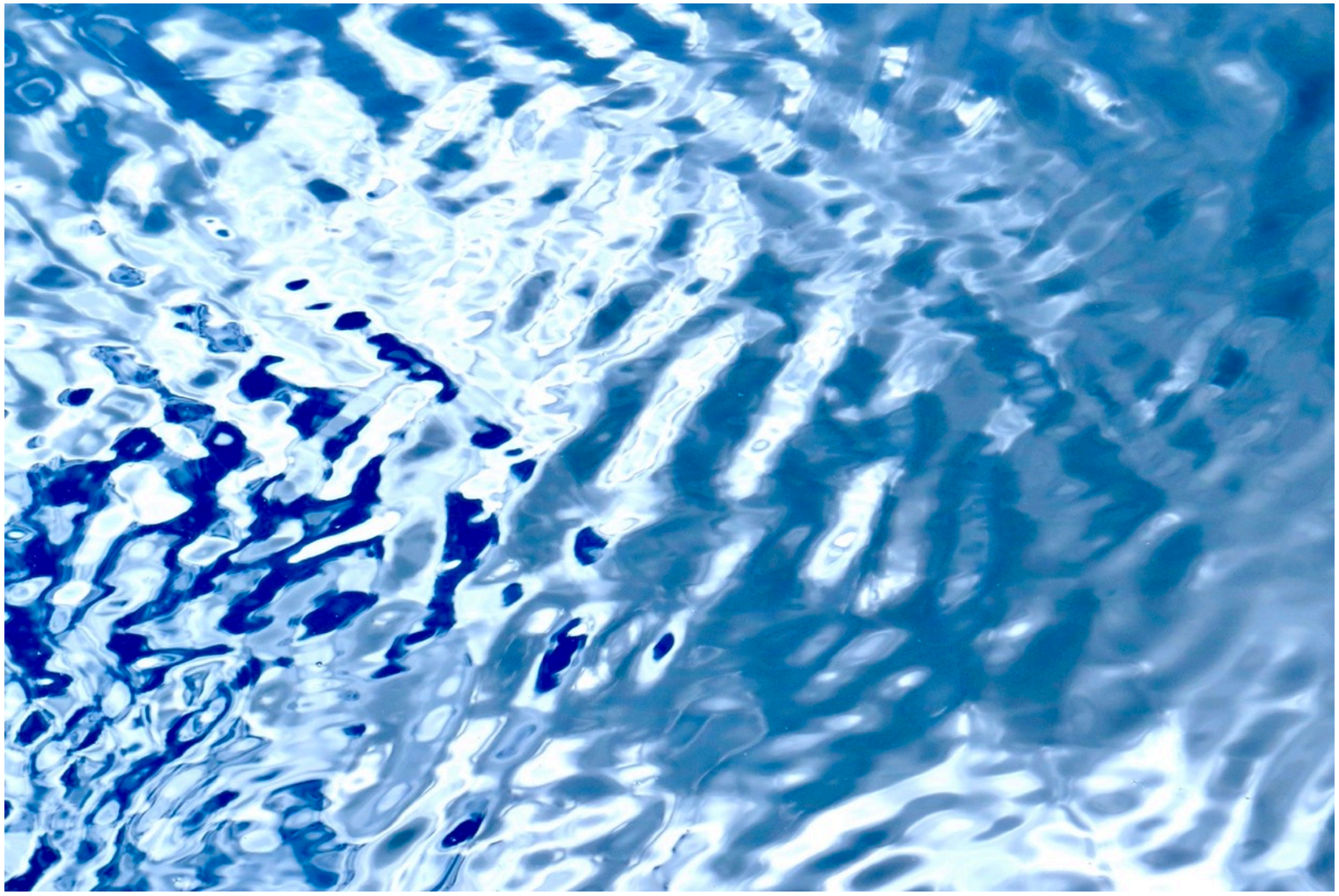
曇り空のときは
曇り色のように
からっぽで

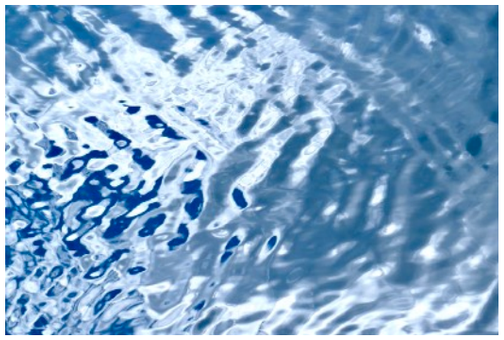
雨降りのときは
雨降り色のように
からっぽで

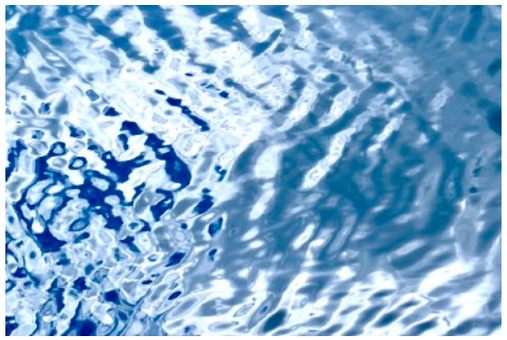
夜の闇のなかでも
闇の色のように
からっぽでいる

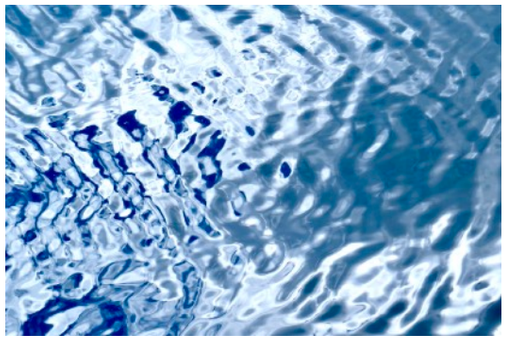
からっぽには
なんでも容れられるけれど
なにを容れても
からっぽでいる

そんな
からっぽで
いられますように









＊愛媛県砥部町・用水池にて

☆photopos-3693　2024.10.20

勝つために
学ぶ者は
学ぶことで
その源にあるはずの
自由の翼を失ってしまう

勝つために
知る者は
知ることで
その源にあるはずの
無知の知を失ってしまう

勝つために
愛する者は
愛することで
その源にあるはずの
無私の愛を失ってしまう

勝つために
生きる者は
生きることで
その源にあるはずの
不死の生を失ってしまう

＊愛媛県砥部町・用水池にて

☆photopos-3694　2024.10.21

くりかえし
くりかえし
学ぶことで
得られるものがあるが

得られたものから
自由になろうとしても
手放せなくなっている
こころとからだがある

自由になるには
学ぶときよりも
幾層も困難なことを
学んでいかねばならない

くりかえし
くりかえし
わたしは
わたしをつくるが

つくられたわたしから
自由になろうとしても
手放せなくなっている
わたしがいる

自由になるには
わたしになるときよりも
遙か遠く険しい道を
歩んでいかねばならない

＊愛媛県砥部町・用水池にて

☆photopos-3695　2024.10.22

有は
無から
展開するように

形は
無形から
展開し

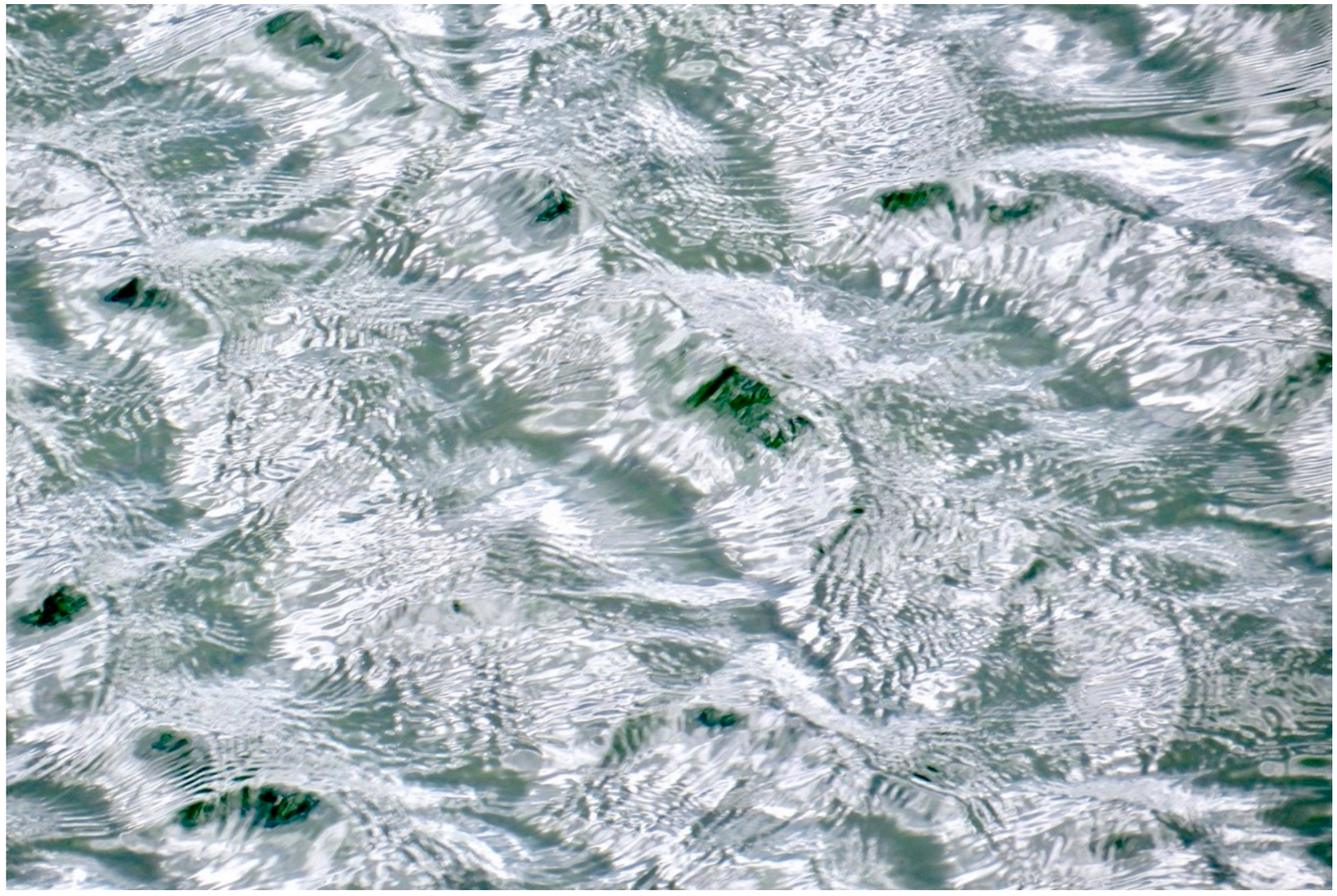
色は
無色から
展開し

時は
永遠から
展開し

俗は
聖から
展開し

私は
無私から
展開する

その
有と無の
相即する環をめぐり
遊戯せよ！



＊愛媛県松山市・重信川にて

☆photopos-3696　2024.10.23

カオスから
コスモスへと
分ける力

星と
星を
つなぐ力

形なきものから
形あるものを
つくる力

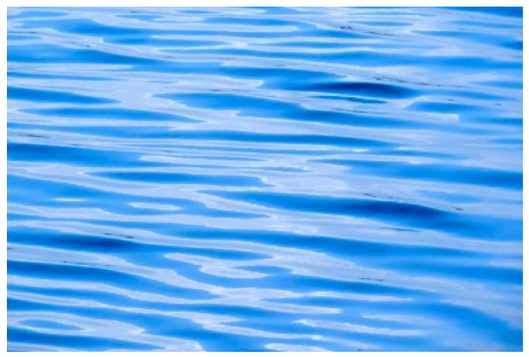
ことばと
ことばを
むすぶ力

いのちなきものから
いのちあるものを
生みだす力

ひとが
ひとを
愛する力

不意に
光が
射してくるように

深みから
訪れる
不思議の力がある



＊愛媛県松山市・重信川河口にて

☆photopos-3697　2024.10.24

ひとつひとつの
ことばの奥には
数かぎりない
意味の種が宿っている

ことばを使う
すると
そこに
世界が映し出され
わたしたちは
その現実を生きている

それと気づかれもしないまま
現実をつくりだす言葉があり

理論のつくりだす現実のなかで
その外に生きられる現実が
見えなくなる言葉がある

わたしたちは
意味に操られ
戯れているじぶんに
気づけないまま
それを現実だと思っている

そのことに気づいたとき
ひとは意味から自由なことばを
見つける果てのない旅にでる

＊愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

☆photopos-3698　2024.10.25

苦しむことさえ
できないままに

たださまよう
こころがある

かたちにならない
苦しみは
ゆくえをなくして
さまようばかり

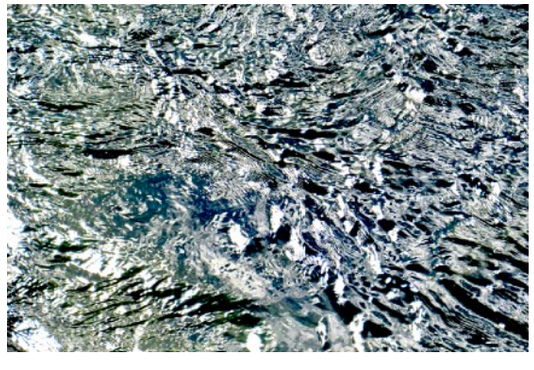
こころはやがて
苦しみを得て
光を見つけられるだろうか

問うことさえ
できないままに

たださまよう
謎がある

かたちにならない
問いは
ゆくえをなくし
迷路をさまようばかり

謎はやがて
問いへと向かい
出口を見つけられるだろうか



＊愛媛県松山市・重信川にて

☆photopos-3699　2024.10.26

物語なしでは
生きられないが

物語にとらわれ
抜け出せないとき
ひとはじぶんを見失う

物語は物語

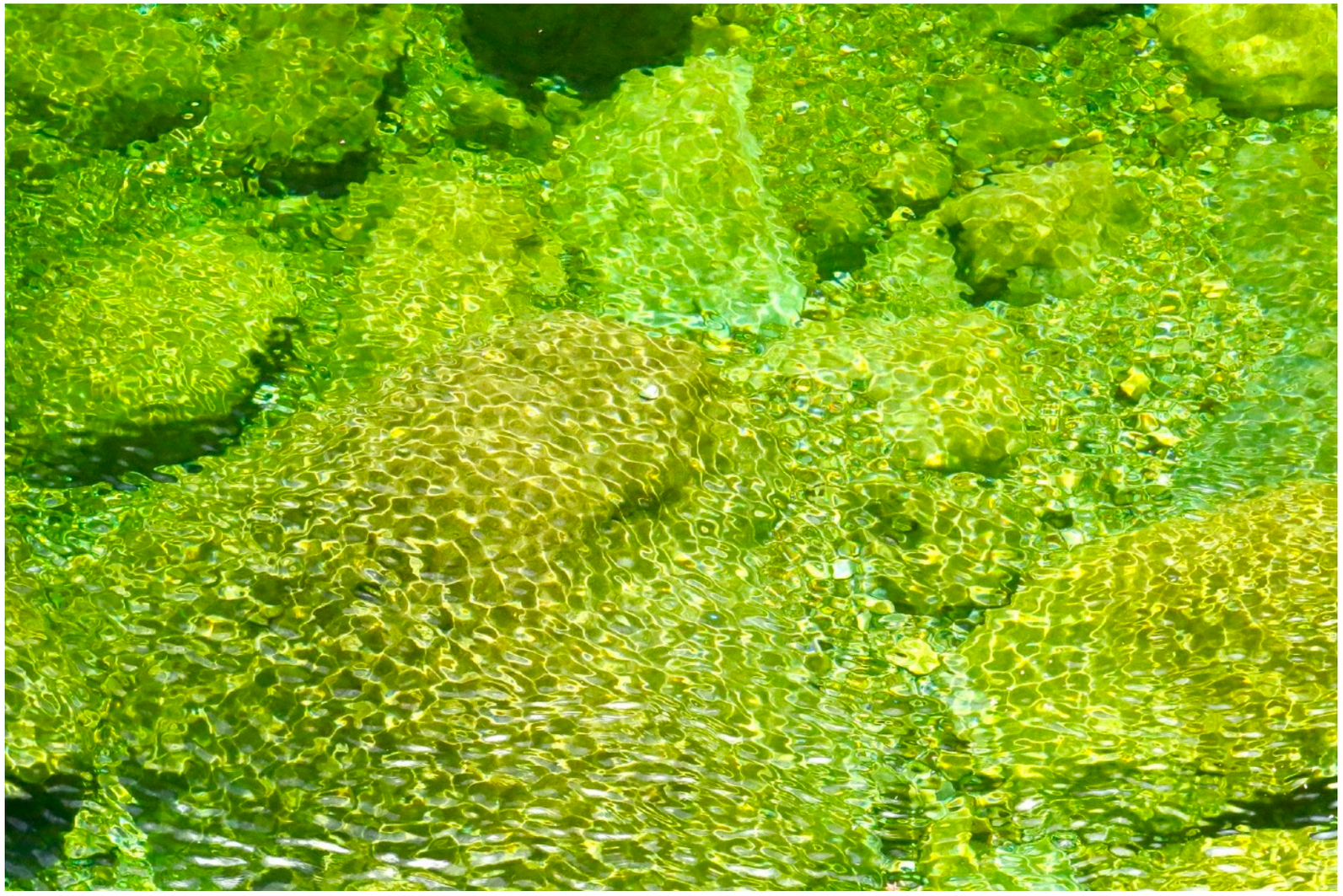
ときに物語は
語り直されねばならない

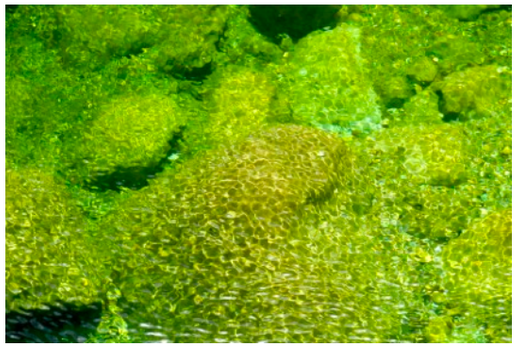
言葉なしでは
生きられないが

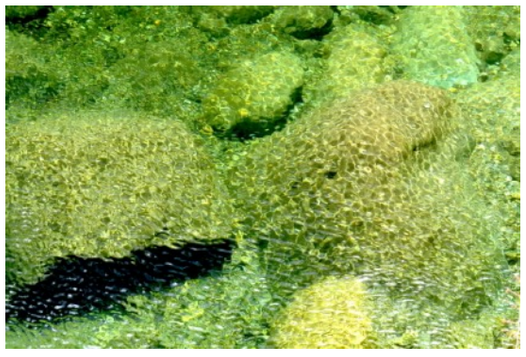
言葉にとらわれ
意味に縛られるとき
ひとはじぶんを見失う

言葉は言葉

ときに言葉は
意味から
解き放たれねばならない







＊愛媛県久万高原町・面河渓にて

☆photopos-3700　2024.10.27

心の声に
耳をすませる

いまだ知られぬ
その内なる世界

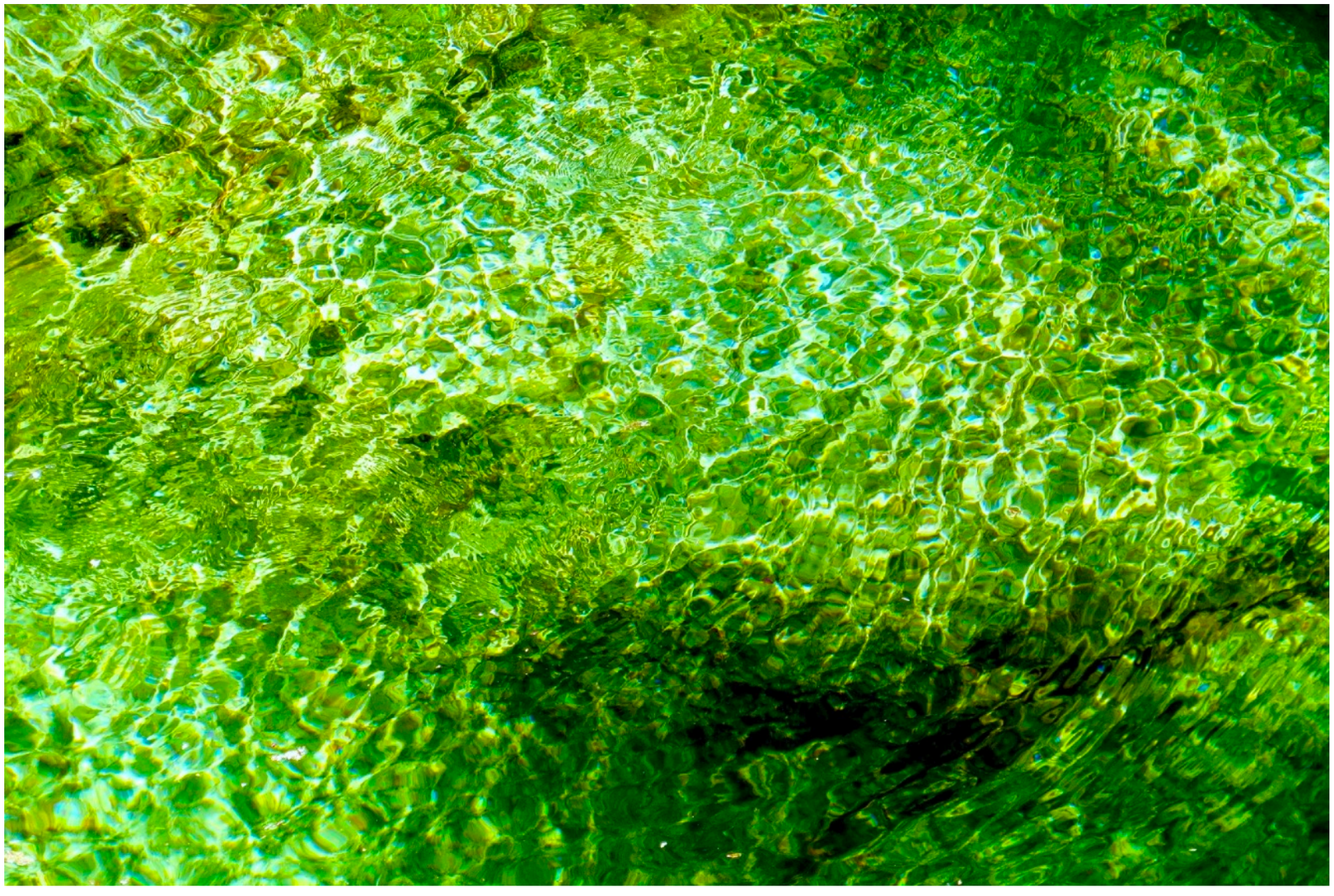
だれにも知られない
その場所で
わたしだけの秘密と生きる

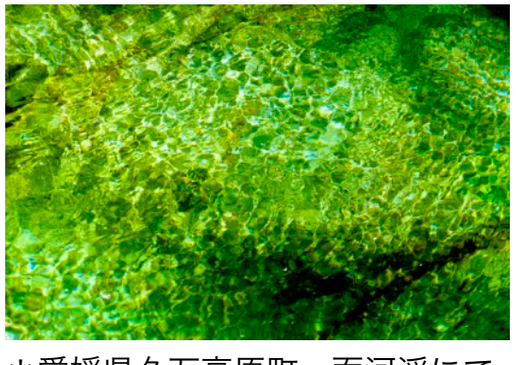
だれのものでもない
わたしの秘密を呼吸する

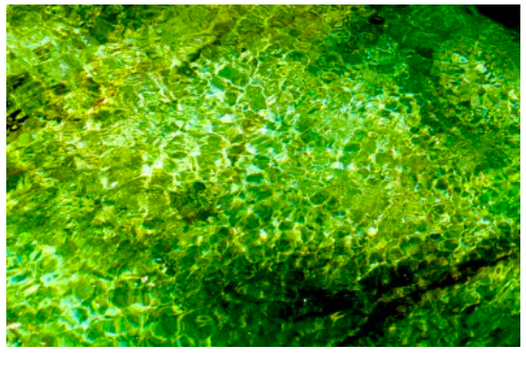
けれど
耳と耳がつながり
ともにひびきあうように

わたしの秘密と通じあえる
あなたの秘密に出会う

そして
はるかな心の深みで
奇蹟は訪れる







＊愛媛県久万高原町・面河渓にて